

わかくさ

平成26年(2014年)2月20日発行

機関誌『わかくさ』 第27号

社会福祉法人 栄光会

児童養護施設 若草園

IP7オ 050-3344-8850 Tel (0880)33-0247

Fax (0880)33-0518

〒787-0155 高知県四万十市下田2211

発行：福留久美、編集：瀬戸雅弘



1.19 新春たこあげ大会

四万十川自然再生協議会、高知県青少年対策推進幡多支部、青少年健全育成四万十市民会議の主催による凧揚げ大会に子ども4人が参加しました。毎年四万十川の入田河川敷（入田キャンプ場）で開催されています。参加者約50名といっしょに新年の空に元気よく凧をはばたかせました。

巻頭言



余寒の候、皆様にはますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

昨年中は、若草園を支える会々員の皆様をはじめ、関係者の方々には、たくさんの御支援、ご厚情を賜りましたことを深く感謝申し上げます。2014年も引き続き、子ども達のために宜しくお願い申し上げます。

まだまだ寒さを感じる季節ではありますが、子ども達は園、学校生活を元気よく、がんばっております。四万十市ではちらほらと、インフルエンザ流行の声も聞こえてきて居りますので、私達も健康管理には十分留意してこの冬を乗り切りたいと思います。

土曜・日曜、寒い園庭の一日……ドッチボールをしたり、ぺこぼん(かくれんぼと鬼ごっこの融合した遊び)をして遊ぶ姿を見る度に、「わかくさっ子」の元気さと、ゲームやカードにばかりに没頭せず、単純に「外で遊ぶ」我が子らに感激…！ よく眺めていると、今度小学1年生になる幼稚園年長さんも外遊びに交じり、遊びのルールを小・中学生のお姉さんやお兄さんに教えてもらいながら、必死について行こうとする姿、成長に感激…！！ 仲良く遊んでいた小学生2人が、トラブル発生！！ 様子をしばらく見ていた中学生、大興奮した小学生の1人が手を出そうとするのを、すかさず仲裁に入って必死で小学生をなだめている中学生の成長に感激!!!

何とその日は感激がトリプルで重なり、「わかくさっ子」を誇らしくもあり、とても心地よい一日でありました。こんな日常の何気ない所に感動やあたたかさがあることを改めて痛感し、そういう些細な感動を見逃さないようにしていきたいと感じているところです。

2014年が子ども達や皆様方にとりましても、心身ともに明るく健康な1年でありますようお願い申し上げます。

施設長 福留久美

育児相談窓口

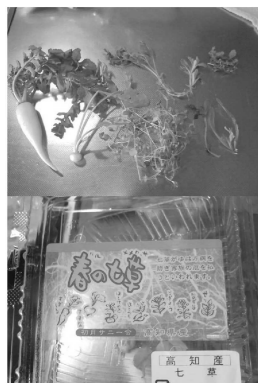
児童家庭支援センター
わかくさ

Tel (0880)33-0258

24時間365日無料



1月7日
朝には七草
粥をつくっ
ていただき
ました。



年末には普段の給食メニューにおせち料理
が加わったり、お正月は職員と外食をします。
若草園には3学期の
始まる1月8日現在36
名の子どもが在籍して
いました。年末年始は
そのほとんどが父母や
祖父母、親戚の家庭に
帰省します。このお正月、2泊3日で帰省し
た子どもが6人、3泊4日が3人、それ以上
が17人でした。また、年末年始を園にて過ご
した子どもが10人あり、彼らには園長からお
年玉が手渡されました。子ども達の家庭状況
においても長期で帰省できる子どもと、まっ
たく帰省が出来ない子どもの格差が大きい状
況があります。



若草園には3学期の
始まる1月8日現在36
名の子どもが在籍して
いました。年末年始は
そのほとんどが父母や
祖父母、親戚の家庭に
帰省します。このお正月、2泊3日で帰省し
た子どもが6人、3泊4日が3人、それ以上
が17人でした。また、年末年始を園にて過ご
した子どもが10人あり、彼らには園長からお
年玉が手渡されました。子ども達の家庭状況
においても長期で帰省できる子どもと、まっ
たく帰省が出来ない子どもの格差が大きい状
況があります。



【幼児】
ふいに「(女性保
育士)〇〇さんみた
いな弟がほしい」と。
せめて妹にして下さ
い(^_^;)」

【幼児】「(女性
保育士)〇〇さん
のどこが好き？」
ときくと「おっぱ
い」と即答。
そうか勝てる見込
みなし(;;)

【中学生】
「〇〇さん髪切ったろ」誰
も気付いてくれないけどあ
なただけはいつも気付いて
くれる。ありがとう(*^_^*)

【幼児】 6歳児と4歳
児がちょっとした事で言
い合いに。それを聞いて
いた6歳女児が冷静に一
言。「いろんな人がおる
がやけん、〇〇くんもそ
んな事いわれん」と。
思わず「正解!!」と言っ
てしまった(^_^)/



会場をまわりながら講演
をする「はまじ」



母校での講演を終えてリ
ラックスしたポーズで



心理療法士として、各ホーム
で児童の生活場面で関わって
いる中で出くわした楽しいエピ
ソードをご紹介します!

【小学生】 サンタを信じている子
がクリスマスプレゼントを「これ
にする」と言うので、「ここで買っ
てしまったら、サンタさん、くれ
んがやない?」と言うと、「職員
が買ってサンタさんに渡してく
れるけん大丈夫!!」と。
彼女の頭の中ではサンタさんか
らのプレゼントはどんな仕組みにな
っているのだろう……。

【幼児】
「職員Aさんのど
こが好き?」と聞
くと「骨」と。
思わず「骨かい!!!」
と心の中でつっこ
んだ。



先輩が
下田小学校
に来た!

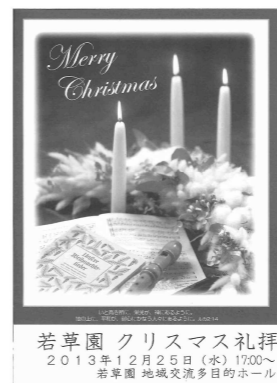


1月18日、若草園の子ども達も通っている
下田小学校に「路上詩人はまじ」こと濱崎一
途さんが来校されました。濱崎さんは平成13
年に若草園を卒業した先輩です。この日は人
権参観日で、子どもと保護者、学校職員に60
分ほどの講演をして下さいました。路上詩人
になったいきさつ、ヒッチハイクの旅で学ん
だ事、お金が貯まる人の見分け方、夢、いじ
め問題、病気から学んだ事など、今までの人
生経験の中から紡ぎ出された味わい深い内容
でした。「大きかろうが、小さかろうが夢は
叶う」と子ども達に希望を与えてくれました。
先輩の活躍に感謝です。

11.30 クリスマスリースづくり
カプスカウト活動としてクリスマ
スの飾り付け、リースをつくりまし
た。輪っかは「永遠」を表わしてい
ます。



1.13 源平かるた合戦
新春恒例の百人一首かるた会を開
催しました。団体戦のあとは希望者
が個人戦にも参加しました。



若草園 クリスマス礼拝
2013年12月25日(水)17:00~
若草園 地域交流多目的ホール



10.26 ねんりんピック開会式
ボーイスカウト中村第1団として入
場行進で県旗をあずかり、開会式
にて掲揚しました。



12.25 クリスマス礼拝・祝会
創設時から関わって頂いている中村栄光教会から牧
師、役員をお招きしてクリスマスを祝いました。
第2部では今、各地でブームとなりつつある地元ア
イドルグループが若草園の子どもの中でもにわか
に結成され、歌って踊ってくれました。



12.21 「やきとり屋台」若草園にやってくる!
在園児童の関係者で地鶏を飼育・販売されている方がボラン
ティアで子ども達全員に地鶏のやきとり、地鶏のゆで卵をふるま
って下さいました。たっぷり食べさせて下さいました。



▼生産者の方を紹介する園長



暖っこ地鶏の特徴
適度な**歯ごたえ**と**脂**のり
産卵力が高い
歯ごたえ
肉付き

愛媛産には、**愛**がある。

暖っこ地鶏 飼育基準

- ①産卵量(もと付) 年間100個以上
- ②産卵期間 産卵開始後30日以内
- ③産卵方法 自然産卵
- ④飼育環境 自然飼育
- ⑤飼育期間 産卵開始後30日以内
- ⑥産卵量(もと付) 年間100個以上
- ⑦産卵期間 産卵開始後30日以内
- ⑧産卵方法 自然産卵
- ⑨飼育環境 自然飼育
- ⑩産卵量(もと付) 年間100個以上
- ⑪産卵期間 産卵開始後30日以内
- ⑫産卵方法 自然産卵
- ⑬飼育環境 自然飼育

▲ふるまわれたお肉は「暖っこ地
鶏」という平成14年に開発され
た品種で、おかげさまで高級食
材をいただく機会になりました。



佐竹音次郎

佐竹音次郎
顕彰活動

まなぶ

昨年度（平成24年度）おおくの方のご協力とご支援のもと、若草園の創立55年記念事業を展開させて頂きました。その3本柱の1つ「継続的研修事業」の取り組みの一環として、現在栄光会では保育の父・佐竹音次郎に学ぶ講演会を企画し、準備させていただいております。

若草園は草創期にキリスト教児童福祉会（CCF）に加入して支援を受けましたが、その後、経営母体の資金難により運営が危機に瀕していました。つてがあり地元四万十市竹島の出身の音次郎が神奈川県においてキリスト教精神により設立し運営していた児童養護施設・鎌倉保育園の中村支部として29年半お世話になった歴史があります。

音次郎が明治時代に目指した孤児院の運営は自他の子どもを区別せず、「保育院」という新たな言葉を用いました。それゆえ彼は「保育の父」と呼ばれるようになったのです。

音次郎が夢みた福祉の理想像をもとおりながら、今と大きく異なる児童福祉をみつめなおす機会となれば幸いです。下記開催案内をご参照の上、ぜひご参加下さい。



藍受褒章を授与された音次郎

学習ボランティア募集します!

中学生に学習指導できる方（家庭教師）を探しています。お気軽に若草園へお問い合わせ下さい。

当番 年月日

高知新聞 2014年(平成26年)2月7日(金曜日)

保育の父 佐竹音次郎知って

【備後】「保育の父」と呼ばれた四万十市出身の保育事業家、佐竹音次郎（1864～1940年）の功績をたどるべく、同市内で児童養護施設を運営する社会福祉法人栄光会が、講演会の準備を進めている。

音次郎は同市竹島生まれ、神奈川県鎌倉市に入院を聞き、身寄りのない子どもを預かる「小児保育院」を1896（明治29）年に併設した。当時珍しかった乳幼児の受け入れ、児童施設に初めて「保育」の名称を取り入れる体、先駆的な運営で保育事業を生徒を

栄光会が運営する四万十市下の児童養護施設「若草園」は1957年、別の社会福祉法人が同市佐佐に開設したが、やがて経営難に。当時の園長が、「鎌倉保育園」が発展した「鎌倉保育園」の関連施設で働いていた縁から、若草園は66年、運営が同保育園側に移管され「鎌倉保育園中村支部若草園」となった。

96年には栄光会が設立され若草園も、独立した計が、同会は「29年の恩は計りれない、顕彰活動が始まるきっかけに」（小椋茂昭理事長）と講演会を企画した。

5月24日午後2時から、会場は音次郎の母校である竹島小学校。社会福祉に詳しい高知大学の玉里恵美子准教授が講演するほか、音次郎の理念や生涯を紹介するリーフレットも配布予定。

定員30人。無料。問い合わせは若草園（0880・33・0247）へ。（新田哲也）

佐竹音次郎をたたえる講演会を準備中の「栄光会」関係者ら（四万十市下）

四万十市の福祉法人企画
5月 母校・竹島小で講演会

イベント告知

▲ 峯 蛭に称 荏山 喜毯が稽り靡げられました。

佐竹音次郎 生誕150年記念
四万十市竹島出身・地元の偉人
保育の父。佐竹音次郎にまなぶ
(佐竹音次郎研究成果講演会)

とき 2014年5月24日(土)
14:00～17:00
ばしょ 四万十市立 竹島小学校
おはなし 高知大学 玉里恵美子准教授(社会学博士)
～入場無料～

講演会のあとは佐竹音次郎の史跡巡りオプションツアーがございます(約1時間)。

▽先日、通っているキリスト教会で納骨式が執り行われた。先祖伝来の墓地は少しでも天に近づこうとの思いなのか、遺族のお婆さんは背負われて小高い山をおりた。▽保育の父・佐竹音次郎も竹島に分骨され、父系宮村家の墓地隣に墓石がある。ここも年配者らが訪れるには骨が折れる場所だ。▽5月に企てられている音次郎の講演会に先だって、理事長と施設長が鎌倉の音次郎の墓地も訪れた。キリストを示す十字架のマークと共に『憩』と大きく刻まれている衝立て状の墓で「永遠の平和を祈り／吾等此辰(いつか)に憩う」と言葉が添えてあった。▽「主(こ)はわたしを青草の原に休ませ／憩いの水のほとりに伴われる」とは聖書の中にある詩篇のことばである。▽音次郎もまた明治・大正の激動の時代を大変な苦勞をして乗り越えてきた。彼の日記にはじめて登場する聖書のことばは「主は備えてくださる」との創世記の言葉であることを発見した。直面する課題に信仰を持って挑んだ事をうかがい知る。多くの喜びや苦難の先に彼が見た夢の実現はどうかである。▽この機会に音次郎のスピリットにもっと触れてみたい。(せと)

編集後記

